

## 市長記者会見

令和4年1月14日（金）

（島根日日新聞）明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。それでは、まず、市長のほうからよろしく願いいたします。

（上定市長）新春第1回目の記者会見となります。今年もどうぞよろしく願いいたします。私からまず6点説明します。

1点目、「小惑星探査機「はやぶさ2」の帰還カプセル特別展示in松江」についてです。これは「はやぶさ2」が打ち上げから6年にわたる宇宙の旅を経て地球に届けた帰還カプセル、この中には小惑星リュウグウのサンプルが入っていた実物ですが、それらの展示を2月18日から5日間にわたって松江テルサで行います。同様のイベントを平成23年の9月末に同じく5日間、くにびきメッセで行っています。このときには多くの小・中学生にお越しいただき、5日間で延べ1万3,450人の来場者でした。今回も、JAXA、宇宙航空研究開発機構からこの催しについての一般公募があり、これに手を挙げ、中国地方では唯一、松江市のみでの展示となります。コロナ感染防止対策を十全に施した上での開催となることを申し添えます。会場は、松江駅前の松江テルサで、1階に「はやぶさ2」の帰還カプセル、実物大の模型、各種パネル等を展示し、関連グッズや宇宙食などの販売もする予定です。また4階で、JAXAの職員の方のリモートでの講演会や、工作教室も予定しています。さらに7階のドームシアターで「はやぶさ2」の解説映像も上映します。入場は無料ですので、奮って足を運んでいただきたいと思いますが、新型コロナウイルスの感染の蔓延に伴いまして、完全予約制とします。1月25日から松江市のホームページで予約の受付を開始し、先着順となります。「密」にならないように同時に展示会場に入場する人数を50名程度に制限します。できるだけお早めにご予約ください。

2点目は、公共施設の「未利用施設」の利活用についてです。松江市にもたくさんの公共施設がございますが、既に建築から年月を経て老朽化し、その役割を終えた施設もあります。この公共施設としての利用を終えた「未利用施設」の譲渡あるいは売却についての検討を進めています。創意工夫を凝らした活用によって、地域の魅力を向上する、あるいはにぎわいづくり、地域の活性化の拠点といったことにご活用いただける民間企業、NPO、個人、各種団体の方を広く募集します。活用の方法としては、売却、譲渡、あるいは貸付けを考えていまして、利用の目的によっては貸付料の減免等の措置を講ずる余地もあろうかと思えます。ただ、今回ご紹介する施設が、施設を閉鎖してから年数が経過しているものが多く、全ての施設について、耐震性、安全性を含めて建物の状況をいま一度確認する必要もあります。修繕が必要なのか、いつから利用できるかといったところは、個別の物件ごとに検討が必要となります。具体的には、19施設ございます。その中でも具体的に活用できそうな物件ということで4つご紹介します。八束町二子の介護予防拠点施設、平成13年築で平成30年3月まで使用していた施設です。美保関東ふれあいプラザは、平成15年築で、昨年3月まで介護予防拠点施設として使用していました。北消防署の鹿島出張所は、昭和60年築で去年の9月

まで、島根町の加賀公民館は、昭和49年築ですが平成21年3月まで使用していたものになります。これまでの活用事例を2つご紹介しますと、玉湯町の駐在所は民間に売却し、生産者と消費者をつなぐアンテナショップとなり、玉湯地区のにぎわいの拠点に生まれ変わっています。北消防署の旧八束出張所は地元の有志による組合に譲渡し、産直市場として活用されています。このような公共施設についてぜひ活用を検討いただきたいと考えております。

3点目が、「松江市地域防災計画」のパブリックコメントの募集についてです。この松江市の地域防災計画は、災害対策基本法に基づき、災害発生時の被害を最小化することを目的として、法律の改正や国の計画の修正に伴い毎年見直しを行っています。今回のパブリックコメントの募集については、市民の皆さまに幅広くご意見をいただき、ご意見をいただいて、それを計画策定の参考にしたいと考えております。主な修正内容は3つあります。1つ目が、災害対策基本法の改正によって、従来の避難勧告あるいは避難指示が去年の5月から避難指示に一本化されており、それに伴う修正になります。この改正については、既に運用は始めております。昨年7月の豪雨災害のときには改正されたレベルによって避難指示を出しています。2つ目が、個別の避難計画の作成ということで、災害時に自ら避難することが難しい「避難行動要支援者」と言われる高齢者あるいは障がいのある方についての避難計画を作成するものです。3つめが、新型コロナウイルス感染症などの感染症対策として、自宅療養者の方の把握、あるいは自宅療養者の方への情報提供といった趣旨を盛り込んだものとなります。今回修正を行う松江市地域防災計画についての意見の募集を既には始めていまして、1月26日を期限としております。ぜひご意見をお寄せいただければと思います。よろしくお願いいたします。

4点目は「松江市みんなにやさしいデジタル市役所計画」のパブリックコメントの募集です。今、全国的にデジタル化と言われる中で、行政サービスの水準を上げ、利便性高く市民の皆さんに提供するという趣旨で、計画を策定しています。今後、策定する「松江市総合計画」と期間を合わせ、2029年度までの計画としています。「ちょうどいい」というのをキーワードとしていまして、必ずしもパソコンあるいはスマートフォンだけでしか手続きができないという形にするつもりはありません。例えば高齢者の方で紙の手に慣れていらっしゃる方、あるいはスマートフォンをお持ちでない方も行政手続きが簡便にできる形が必要だと考え、そのバランスを取っていきたいと思っています。デジタル化によって、時間の短縮、データ管理が容易になるという面もありますので、選択肢を増やしていくことが非常に重要と考えています。空いた時間に気軽に手続きができたり、遠くまで出かけなくても自宅で手続きができる、分からないことがあればLINEなどで聞いたりサポートも受けられる「ちょうどいい」市役所を目指してまいります。計画の3つの柱として、「市民サービスの向上」「市役所業務の効率化」その2つを支えるための「人材育成」を基本方針としています。パソコンやスマホを使うのは難しいと思われる方がいらっしゃると思います。そういった方に対するサポートの充実というのが必要です。また、通常の紙ベースの手続きでは面倒だし時間もないという方がスマホあるいはパソコンを使っていつでも手軽に入力ができるようにしたいと考えております。さらに情報を探すのに時間がかかることなくすぐ案内できるサービスを提供してまいります。最後

に職員が余裕を持って市民の方お一人一人に寄り添ったきめの細かい対応をこのデジタル化によって可能にしなければならないと考えています。このデジタル市役所計画について、ご意見を募集します。期間は1月17日から2月16日までですので、ぜひご意見をお寄せくださいますよう、よろしく願いいたします。みんなにとって「ちょうどいい」市役所を目指してまいりますので、こんな視点も入れてほしい、こんなことも計画に取り入れてほしい、こんなことができるといいなといったご意見をお待ちしています。

5点目、本日1月14日付で専決処分をいたします一般会計補正予算についてです。本年度第10号の補正予算となり、30億9,360万円を計上しています。新型コロナウイルス感染症対策として、国が定めた「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に呼応した補正予算を組むものです。財源は補助金・交付金等ございますが、国のほうの財源で措置します。具体的には2つございまして、1つ目が、住民税の非課税世帯に対する1世帯当たり10万円の給付金でございます。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることから、1世帯当たり10万円を住民税の非課税世帯等に対して支給するという制度になります。支給対象の世帯は、住民税の非課税世帯と、去年の1月以降に感染症の影響等を受けて収入が減少し、住民税非課税世帯の収入の水準以下である世帯、これを家計急変世帯と呼んでおりますが、こういった世帯が支給対象になります。松江市の支給対象については概算で3万世帯弱というの見込んでおります。支給のためのチームを編成し、2月に確認書を対象世帯にお送りし、返送いただいた世帯への支給を2月中に行う予定です。できるだけ速やかに進めてまいりますので、皆さまのご理解の程、よろしくお願いいたします。2つ目が、保育所や幼稚園などに勤務する職員の賃金の改善です。これも国の予算で行うものでございます。保育所や幼稚園などに勤務する職員の処遇を改善するため、2月から賃金改善を実施する施設に対して補助するというもので、2月・3月分が補助の対象期間となり、対象となる施設は、全部で170施設となります。保育所あるいは幼稚園の職員をしっかりと確保するという趣旨で国が制度化したものということになります。

最後、新型コロナウイルス感染症の現在の松江市の状況について触れさせていただきます。検査件数は、昨年8月の5,222件をピークに減ってきている状態でしたが、この1月は昨日までの時点で1,795件となっており、感染者の増加に伴って検査件数も増えています。さらに感染者数も8月がピークで285人となっており、10月6日以降は、松江市においては感染者が確認されない状態が続いていましたが、1月3日に4名確認され昨日までの時点で82名となっております。1月3日以降、連日感染者が確認されていまして、7日には21人と非常に多くなっております。このときには市内の飲食店でのクラスターが発生し、店名の公表もしております。こういった状況を踏まえまして、松江市からのお願いでございます。今回のオミクロン株を中心とした感染の拡大のスピードが非常に速くなっております。今まで続けていただいている感染予防対策を滞りなく気を引き締めて続けていくことが重要と考えています。改めてのお願いで恐縮ですが、手洗いの励行、マスクの着用、三密を避ける、室内を喚起する、健康管理、仮に体調の異変の自覚があった場合には、ためらうことなく病院で診察を受けるといった行動を徹底していただきますよう、お願いする次第であります。ご

案内のとおり、新しい生活様式の中で、感染予防を心がけるこの「まつえじょう」という行動指針を参考にし、感染予防の徹底に心がけてください。島根県からの要請事項である、鳥取県を除く他の都道府県との不要不急の往来を仕事、通勤、通学、受験などのやむを得ない場合を除いて、できる限りお控えください。また、飲食店などを利用する際には感染防止対策を徹底し、アルコールを含んだ飲食かどうかにかかわらず、4人以下、2時間以内を限度とすることも徹底してください。これまで何度もお伝えしていますが、新型コロナウイルス感染症、これは誰でも感染する可能性があります。感染した方、あるいはその家族、医療関係者への励ましや応援する気持ちを持つことが松江市が一丸となってコロナ対策に取り組む基本であると考えております。皆さまにはこれまでも多大なご協力をいただいていることは重々承知しておりますが、引き続き、感染防止対策に市を挙げて取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力のほどを何とぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

(読売新聞) 未利用施設の件ですが、利活用する担い手の募集というのはこれまでもありますか。

(上定市長) 今までも個別の問合せは受けており、その際に、利用者の方のご意向と市の資産の性格等がマッチする場合にはご紹介をしておりました。ただ、こういった形で19施設まとめて募集ということはやっておりません。今回改めて見ていただき、その中でマッチするようなものがあれば、ぜひ民間事業者等のご意向を踏まえた上で検討したいと考えています。

(読売新聞) この記者会見をユーチューブ等でご覧になった方がいたとして、本日から受け付けていますか。

(上定市長) もちろんです。問合せいただき、皆さんが考えていらっしゃる用途にマッチしそうなものがあれば、実際の老朽化の状況や、仮に施設の整備が必要であればその規模などのお話ができると考えています。

(読売新聞) これまでも一応未利用施設の活用に関しての募集をされていたとのことですが、今回こういう形で発表された背景などありますか。

(上定市長) 大きな意味はありませんが、未利用施設自体がほったらかしになると、躯体部分のメンテナンスは行っていますが、施設としての価値がどんどん劣化していきましますし、こういった公共施設はまちの中心部の利便性が高いところにあることが常でもありますので、そういった中心部にある施設がどんどん朽ちていくと、まちの価値自体を毀損する結果になりかねないという危機意識を持っております。その中で、民間の方に活用いただく余地があるのではないかとことを庁内で話しまして、今回こういった形で皆さんにお目につけたということです。

(BSS) ワクチン関連ですが、接種の前倒しについて、どのようにお考えですか。

(上定市長) 前回の会見でお話しましたが、高齢者の方、医療従事者の方については、1か月の前倒しを行い、医療従事者の3回目接種についてはすでに始めています。64歳以下の方の接種についても前倒しの方針が出ましたので、そちらについては準備体制が整いましたらアナウンスをさせていただきます。

(BSS) 高齢者の前倒しについてもこれから検討されるということですか。

(上定市長) 高齢者については、既に1か月前倒すということでアナウンスをしております。できるだけ早く皆さまのお手元に接種券をお配りするよう準備を進めているところです。

(BSS) 濃厚接触者の待機期間の短縮が今日決定されますが、その受け止めをいただけますか。

(上定市長) 島根県全体で見たときに、昨日は感染者が100人ということで、松江市は比較的1桁台で推移していますが、こういった課題については、行政組織の枠を超えて取り組んでいく必要があると考えております。松江市でも急性期の受入れ体制が整った病院がございますので、松江市以外の方も受け入れておりますが、100人単位となると医療体制の逼迫と、当然通常の医療の提供もありますので、待機期間をどう設けていくかというのは、濃厚接触の方の2週間が負担になっているという話も聞いていますので、ある程度柔軟な、弾力的な運用が必要だと考えております。感染予防対策について市民の皆さんにアナウンスをし、しっかりと講じていただくということが必要と認識しております。

(朝日新聞) 未利用施設の利活用の話ですが、松江育ちの市長として、施設がどんな具合に花開くといいかなといえますか、例えばこうなったらいいとか、もう少し具体的な話がありましたら教えてください。

(上定市長) やはり公共施設は立地としては非常にいいところ、利便性が高い場所にあります。玉湯の八百万マーケットというにぎわいの拠点に実際なっているところは、玉湯川沿いの非常に好立地な、旅館に囲まれたようなところにあります。玉造の場合は、旅館の中に意識的に物販施設を置かず、回遊性を高めて温泉街を歩いて回っていただくときに、地元の産品も置かれているので、まちの価値の向上に寄与しているように感じています。そういった好立地を生かしてにぎわいの拠点となるといいなと思っております。特にこういった観光地においては、行政の発想だけではなかなかとり着けないような活用の仕方というのが恐らくあると思います。そういったご意見をいただいて、こういった活用ができるというのがある程度定まりましたら、それをやる事業者さんを募集する形もあろうかと思えます。皆さまとできるだけコミュニケーションを取り、いい場所をよりよくしていく形の活用方法が見つかるといいなと思っております。

(朝日新聞) 柔軟な発想を生かし、取り入れていきたいというお考えでしょうか。

(上定市長) そうですね。用途にもよるところはありますが、市としてできるだけバックアップをしたいと考えています。

(BSS) 年が明けたところで、改めて原発再稼働の判断時期についてコメントいただけますか。

(上定市長) 島根原発2号機の再稼働の判断については、時期を定めて、その時期に向かって検討を進めていくというものではないと従前から考えております。今の段階で、いつという判断のリミットがあるものではありません。今までに市民の皆さんと対話させていただいた意見や客観的な情勢、事業者のスタンスなどを確認し、その上で判断をしていきたいと考えております。

(島根日日新聞) ほかにご質問はございませんでしょうか。それでは、会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(上定市長) ありがとうございました。